

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

胆振管内 白老町立萩野小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育み、アイヌ文化への理解を深めるために、総合的な学習の時間等において、ウポボイの見学を行うとともに、しろおいオル事務所「チキサニ」の学芸員による講話及び体験活動を通して、アイヌ文化及びアイヌの人たちの歴史について探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

アイヌの人たちの歴史や文化について、特色や自分たちとの関わりについて調べる活動を通して、地域の自然や文化・歴史を学び、ふるさと白老への愛着を育むとともに、夢の実現に向かって自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

アイヌの人たちの歴史や文化に興味・関心をもち、児童の発達の段階に応じたテーマ及び探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

各学年でテーマを設定し、様々な情報を集めました。

第3学年では、社会科と関連付けて、伝統的な川での漁法の体験学習及びムックリ制作等を通して、アイヌの人たちの生活について学びました。第6学年では、ウポボイ見学やアイヌ文様彫刻など、アイヌの人たちの歴史や文化について体験的に学びました。

(3) 整理・分析

調べた内容を、1人1台端末を活用して整理・分析することを通して、身近な場面でアイヌの人たちの歴史や文化と関わっていることについて気付き、学習したことの理解を深めるとともに、新たな問いを見出すことができました。

(4) まとめ・表現

児童が調べた内容を、学年ごとに壁新聞やリーフレットの作成及び1人1台端末を活用してまとめるとともに、発表会を行い、アイヌの人たちの歴史や文化についてさらに理解を深めました。



【ウポボイ見学時の様子】



【ムックリ制作をしている様子】



【文様彫刻をしている様子】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・課題について、理解を深めたり、新たな課題解決の視点に気付いたりできるよう、情報の収集の場面で、児童同士で1人1台端末の共同編集機能を活用し、適宜交流・協議をしました。

実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、児童が設定した課題について、探究的に学習に取り組むことにより、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・まとめ・表現の際に、異学年への発表や地域や観光客に伝える機会を設けるなど、相手意識や目的意識を工夫することでよりふるさとに対する愛着や誇りを育むことが期待できます。